

フリードリヒ・エーベルハルト・
フォン・ロヒョーの生涯, 思想お
よび業績について (その2)

田 中 昭 徳

※ [全集] は, F・ヨナーヌ, F・ヴィネッケ編 「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー教育学全集」 (*Friedrich Eberhard von Rochows sämtliche pädagogische Schriften, herausgegeben von F. Jonas und F. Wienecke, Berlin 1907-1910*) を示す。

ロヒョー著作目録 (Ⅱ)

1792年

(45) 著書『是正——第1試論』 (*Berichtigungen. Erster Versuch*)。発行地
ブラウンシュヴァイヒ。発行時 1792年。発行所 シュールブーフハン
トルング。総頁数 288頁。

内容 III頁 目次。1-284頁 本文。285頁 正誤表。〔全集第2巻, 171-288頁収
録。〕

この書は, 次のように改訂・再版された。

- a. 同一書名。改訂第2版。発行地 ケーニヒスルター。発行時 1798年。
発行所 クーレマン書店。(参照, 『新一般ドイツ文庫』 *Neue allgemeine
deutsche Bibliothek*. 付録第2部, ベルリン 1803年, 680頁)
- b. 同一書名。改訂第2版。発行地 ライプチヒ。発行地 記入なし。発
行所 W・ナウク書店。

『大教育家列伝』 (*Die Bildnissen und Lebensbeschreibungen der*

berühmtesten und verdienstvollsten Pädagogen und Schulmänner alterer und neuerer Zeit, Quedlinburg und Leipzig, bei Gottlieb Basse [ohne Jahr]) には、この版が挙げられている。

- (46) 論文「学校教師がいつでも快活または上きげんであることの大きな価値について」 (*Vom großen Werte des beständigen Frohsinns oder der guten Laune bei einem Schullehrer*)。署名 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。H・G・ツェレンナー編集『ドイツ学校の友——市民学校および農村学校教師のための手引書を兼ねた有益な読物』 (*Der deutsche Schulfreund, ein nützliches Hand=und Lesebuch für Lehrer in Bürger=und Landschulen. herausgegeben von H. G. Zerrenner*) 第3巻, エールフルト 1792年刊, 26-29頁所収。

なお、この論文はまた同上書の改訂新版, 第3巻, エールフルト 1795年刊, 26-30頁に再録されている。

- (47) 「1792年2月7日, ポツダムにて開催されたクールマルク経済協会集会における第一講演」 (*Erste Rede, gehalten in der kurmärkischen ökonomischen Gesellschaft in Potsdam, am 7. Februar 1792.*)。署名 会長 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』 (*Annalen der Märkischen Ökonomischen Gesellschaft zu Potsdam*) 第1巻第1号, ポツダム 1792年, カルル・クリスティーアーン・ホルヴァート書店発行, 33-45頁所収。

- (48) カルル・フリードリヒ・リーマン著『レカーン学校の新記述』への「序文」 (*Vorrede zu Karl Friedrich Riemanns, Neue Beschreibung der Reckahmschen Schulen, größtenteils zugleich ein Praktisches Handbuch für Lehrer, welche nach Reckahmscher Lehrart unterrichten können und wollen.*

Mit einer Vorrede von Sr. Hochwürden dem Herrn Domherrn u. a. Friedrich Eberhard von Rochow, Erbherrn auf Reckan a. a.)。ベルリンおよびシ
ュテットイン 1792年, フリードリヒ・ニコライ出版社発行。III-VIII
頁。署名 1792年3月25日; レカーンにて, フォン・ロヒョー。〔全集
第2巻, 168-169頁収録。〕

なお, この「序文」では, 主として学校における懲罰 (Schulstrafe)
の問題が論じられている。

(49) 論文「マルク農民への講話」 (*Märkische Bauerngespräche*)。署名
1792年4月3日, レカーンにて, フォン・ロヒョー。『マルク経済協会
年報』第1巻第1号, ポツダム 1792年刊, 142-152頁所収。

内容 第1講話「養蚕」142-145頁。第2講話「耕作について」145-147頁。第3講
話「第4の穀物」 (*Das vierte Korn*) 150-152頁。第4講話「第4の穀物」 (継続)
152-154頁。

(50) 「運送軌道の規格統一について。1792年5月8日, ポツダムにて開催
されたクールマルク経済協会例会における講演」 (*Über die Gleichmachung
der Fuhrgeleise. Eine Vorlesung, gehalten am 8ten Mai 1792 in der ökonomischen
Gesellschaft zu Potsdam.*)。署名 1792年5月8日, レカーンに
て, F・E・v・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第1巻第1号, ポツ
ダム 1792年刊, 100-110頁所収。

(51) 論文「経済学上で, 正しい経験として一般的行為規範を与えよう
とする試みの困難性について」 (*Über die Schwierigkeit, solche ökonomische
Versuche zu machen, die als richtige Erfahrungen allgemeine Verhal-
tungsmaßregeln geben.*)。署名 1792年11月6日, レカーンにて, フォン・
ロヒョー。『マルク経済協会年報』第1巻第2号, ポツダム 1793年,
カルル・クリスティーアーン・ホルヴァート書店発行, 60-71頁所収。

- (52) 「エジプト豆について」(*Miscellaneen. Cicer arietinum. Nachmittags, den 6 ten November 1792 vorgelesen*)。署名 なし。『マルク経済協会年報』第1巻第2号, ポツダム 1793年刊, 71-72頁所収。

1793年

- (53) 論文「枢密官房書記官レーベルク氏著《フランス革命の研究》における氏の立場について」(*Über eine Stelle in Herrn Geh. Canzley = Sekretär Rehbergs Untersuchungen über die französische Revolution.*)。署名 1793年1月日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『ドイツ月刊雑誌』(*Deutsche Monatsschrift*) 1793年, 第3巻(9-12月号)。ベルリン 1793年, フリードリヒ・フィーヴェーク兄弟書店発行, 3-20頁所収。

- (54) 「まむしの肉食獸的性質について」(*Über die Raubtiernatur der Natter. Auszug aus einem Briefe des Herrn Dohmherrn von Rochow zu Rechan vom 20. Mai 1793.*)。『ベルリン自然研究愛好者協会紀要』(*Schriften der Gesellschaft naturforschender Frunde zu Berlin*) 第11巻, ベルリン 1794年, ハイノリヒ・アウグスト・ロットマン書店発行。260頁所収。

- (55) 「一般的経済原則の適用に及ぼす地方の影響について。1793年5月21日, ポツダムにて開催されたクールマルク経済協会総会における講演」(*Über die Einfluß des Lokalen in die Anwendung allgemeiner ökonomischer Grundsätze. Eine Vorlesung, gehalten in der Generalversammlung der Königl. Kurmärkisch = Ökonomischen Societät zu Potsdam, den 21. Mai 1793.*)。署名(所収雑誌巻末の訂正欄での補遺にて)レカーンの領主フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『マルク経

『経済協会年報』第1巻第3号、ポツダム 1794年刊、58-75頁所収。

(56) 「〔クールマルク経済協会〕新集会所御真影奉戴式式辞」 (*Anrede an die im neuen Versammlungshause aufgestellten beiden Königlichen Bildnisse.*)。署名 1793年11月5日、ポツダムにて開催された総会での演説を終えるに当たりて、レカーンの領主などなどたるフリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第1巻第3号、ポツダム 1794年刊、109-110頁所収。

(57) 「農民の自助について。1793年11月5日、ポツダムにて開催された〔クールマルク経済協会〕総会における講演」 (*Vorlesung, gehalten in der Generalversammlung zu Potsdam, den 5. November 1793. Über die Selbsthilfe der Landleute.*)。署名 レカーンの領主などなどたるフリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第1巻第3号、ポツダム 1794年刊、111-114頁所収。

(58) 「わが従者マルトウスのための墓碑銘」 (*Grabschrift für den Kammerdiener Martus.*)。『ドイツ新聞』 (*Deutsche Zeitung*)、ゴータ 1793年、637頁。

1794年

(59) 著書『是正——第2試論、付 序文』 (*Berichtigungen. Zweiter Versuch nebst einer Vorrede von Friedrich Eberhard von Rochow auf Reckan etc.*)。発行地 ブラウンシュヴァイヒ。発行時 1794年。発行所 シュールブーフハントルング。総頁数 263頁。

内容 III-XXXVIII頁 序文。XXXVIII頁 署名 1794年5月17日、ブランデンブルクにて、フォン・ロヒョー。XXXIX頁 目次。1-224頁 本文。〔全集第2巻、289-396頁収録。〕

- (60) 「《**適当に斟酌して**》という言葉についての重要な事柄」 (*Etwas über die Worte: Cum grano salis.*)。署名 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。『ドイツ月刊雑誌』1794年第2巻(5-8月号), ベルリン 1794年, フリードリヒ・フィーヴェーク兄弟書店発行, 11-13頁所収。
- (61) 論文「《**試み**》ということについての試論」 (*Versuch über den Versuch.*)。署名 レカーンにて, フォン・ロヒュー。『ドイツ月刊雑誌』1794年第3巻(9-12月号), ベルリン 1794年刊, 3-10頁所収。〔全集第3巻, 1-6頁収録。〕
- (62) 論文「陶製食器に鉛性釉薬をかけることの有害性ならびにその除去についての若干の提案」 (*Die Schädlichkeit der Bleyglasur in irdenen Küchen Gefäßen nebst Vorschlägen zu deren Abhelfung.*) 『マルク経済協会年報』第2巻第1号, ポツダム 1795年, カルル・クリスティーアーン・ホルヴァート書店発行, 1-4頁所収。
- (63) 論文「ドイツ産コーヒー豆または **シセル・アリエティヌム**について」 (*Vom deutschen Kaffee oder Siser arietinum.*) 『マルク経済協会年報』第2巻第1号, ポツダム 1795年刊, 10-12頁所収。
- (64) 論文「クールマルクのツアウヒェ郡における農民の経済状態にあてはめてみた農業の利害得失について」 (*Über Gewinn und Verlust bei der Landwirtschaft, angewandt auf den ökonomischen Zustand eines Bauern in dem Kreise der Kurmark, die Zauche genannt.*)。『マルク経済協会年報』第2巻第1号, ポツダム 1795年刊, 38-44頁所収。

- (65) 論文「大規模な果実栽培について」 (*Über die Obstbaumzucht im Großen*)。署名 1794年11月4日, レカーンにて。『マルク経済協会年報』第2巻第1号, ポツダム 1795年刊, 145-151頁所収。

1795年

- (66) 著書『わたしの学校の歴史』 (*Geschichte meiner Schulen. Nebst vier Beilagen.*)。発行地 シュレースヴィヒ。発行時 1795年。発行所 ヨーハン・ゴットロープ・レース書店。総頁数 96頁。

内容 タイトルページには, 一匹のライオンが網にかかって倒れており, そのライオンを救い出すべく一匹のネズミが幾つかの網目をくいやぶっている装飾画(円形)が掲げられている。また, タイトルページ全体は銅版印刷である。3-32頁 本文。33-37頁 付録A: ロヒョー著「農民の子どものための, あるいは村落学校で使用されるべき教科書試案」に関する, 1773年6月17日付けのツェードリッツの書簡。38-54頁 付録B: 学校劇。55頁 付録C: レカーンの学校について意見を述べた1779年5月26日付けのツェードリッツの書簡。57-96頁 付録D: 1773年の農村学校教師にたいする訓令 (*Instruktion für die Land = Schulmeister*)^{*}。〔全集第3巻, 7-55頁収録。〕

^{*} 入沢宗寿博士はその著「汎愛派教育思想の研究」(昭和4年, 教育研究会刊)において, この「訓令」をロヒョー自身の著作として取り扱われている(同書307, 315, 317, 320頁参照)が, しかしそれは誤りであって, この「訓令」はルター派高等宗務局の命によって同高等宗務局評議官テラー (Wilhelm Abraham Teller, 1734-1804) が起草したものである。(参照, 全集第3巻, 37頁「脚注」および491頁。)

また, この書は, ヘンケ編『宗教哲学, 聖書釈義および教会史雑誌』 (*Magazin für Religionsphilosophie, Exegese und Kirchengeschichte. Herausgegeben von Heinrich Philipp Conrad Henke.*) 第3巻第3号, ヘルムシュタット 1795年, C・G・フレックアイゼン書店発行, 337-61頁に再録されており, なお, そのほかに次のような翻刻版が刊行されている。

- a. 同一書名。編集者 アルバート・リヒター。発行地 ライプチヒ。

発行時 1890年。(Neudr. päd. Schriften Bd. 1.)。

- b. 同一書名。編集者 テオードル・フリッチュ。発行地 ライプチヒ。発行時 1908年。発行所 フィリップ・レークラム出版書肆。(Reclams Universal=Bibliothek, Nr. 355.)。

(67) 「婦人服の曳き裾」(*Die Schleppe. Ein deutsches Original=Nachspiel in einem Akte*)。署名 なし。E・J・ベルトゥーフ, G・M・クラウス編集『奢侈およびモード雑誌』(*Journal des Luxus und der Moden. Herausgegeben von F. J. Bertuch und G. M. Kraus*) 第10巻, ワイマール 1795年刊, 554-562頁所収。

(68) 「形式」(*Form*)。署名 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。フリードリヒ・ゲンツ編集『新ドイツ月刊雑誌』(*Neue Deutsche Monatsschrift. Herausgegeben von Friedrich Gentz.*) 1795年第1巻(1-4月号), ベルリン 1795年, フリードリヒフィーヴェーク兄弟書店発行, 76-81頁所収。

(69) 論文「五官について」(*Über die Sinne*)。署名 1795年4月14日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。『ドイツ月刊雑誌』1795年第2巻(5-8月号), ライプチヒ 1795年, ゾンメルシェ・ブーフハントルング発行, 113-117頁所収。〔全集第3巻, 56-59頁収録。〕

(70) 詩「矢」(*Der Pfeil*)。署名 1795年7月12日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。『ドイツ月刊雑誌』1796年第1巻(1-4月号), ベルリン 1796年刊, 275頁所収。

(71) 「救貧院を顧慮して都市下級学校および農村学校をもっと有効に組織すべき必要性について」 (*Über die Notwendigkeit einer zweckmäßigeren Einrichtung der niedern Stadt- und Landschulen in Rücksicht auf die Armenanstalten.*)。署名 1795年4月15日, レカーンにて, [クールマルク経済協会] 会長フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第2巻第2号, ポツダム 1795年, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行, 1-11頁所収。〔全集第3巻, 60-67頁収録。〕

また, この論文は, 同一題名で, フリードリヒ・ゲンツ編集『新ドイツ月刊雑誌』1795年第3巻, ベルリン 1795年, フリードリヒ・フィーヴェーク兄書店発行, 8-13頁にも掲載された。

(72) 「雑報」 (*Vermischte Nachrichten.*)。

1. 1795年5月1日の雷雨 (*Gewitter am 1. Mai 1795.*)。

2. ヴァイデン (*Weiden*)※。

※ テキスト未入手のため, 〈しだれ柳〉 (*Weide, f.-n*) の意か, あるいは〈放牧地〉・〈牧草〉 (*Weide, f.-n*) の意かは不明。

3. 秋まきの大麦 (*Wintergerste*)。

4. 樹籬に匍わした植物の果実 (*Spalierobst.*)

5. 推薦図書《農業入門》 (*Empfehlung des Buches: „Die ersten Gründe der Landwirtschaft.“*)

6. シベリア産からす麦 (*sibirischer Hafer.*)

7. 夏作ライ麦 (*Sommerroggen.*)

『マルク経済協会年報』第2巻第2号, ポツダム 1795年刊, 139-141頁所収。

1796年

(73) 著書『摘要——別名, 簡潔な命題での人間についての問答』

(*Summarium oder Menschen = Katechismus in kurzen Sätzen, nebst einer Vorrede.*)。発行地 シュレースヴィヒ。発行時 1796年。発行所 ヨーハン・ゴットロープ・レース書店。総頁数 51頁。

内容 3-8頁 序文。8頁 署名, 著者。9-51頁 本文。〔全集第3巻, 69-92頁収録。〕

(74) 著書『摘要——別名, 人間についての問答——への補遺』 (*Zusätze zu dem Summarium oder Menschen = Katechismus.*)。発行地 シュレースヴィヒ。発行時 1796年。発行所 ヨーハン・ゴットロープ・レース書店。総頁数 90頁。

内容 I-IV頁 序文。IV頁 署名, 1796年5月12日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。1-86頁 本文。〔全集第3巻, 93-128頁収録。〕

(75) 論文「大学教授ヤコープ氏著《経験心理学綱要》における理性と悟性について」 (*Über Vernunft und Verstand in Professors Jakobs Grundriß der Erfahrungs=Seelen=Lehre.*)。署名 なし。ヘンケ編『宗教哲学, 聖書釈義および教会史雑誌』第5巻, ヘルムシュタット 1796年, C・G・フレックアイゼン書店発行, 439-451頁所収。〔全集第3巻, 129-136頁収録。〕

(76) 「わたしの伝記の一端。〔《マルク・ブランデンブルク歳時記》〕編集者に宛てた私信より」 (*Einige Nachrichten aus dem Leben des Herrn Domherrn von Rochow, aus einem Brief desselben an die Herausgeber.*)。署名 1796年7月26日, ブランデンブルクにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。J. W. A. コスマン, Th. ハインジウス編集『マルク・ブランデンブルク歳時記』 (*Denkwürdigkeiten und Tagesgeschichten der Mark Brandenburg. Herausgegeben von J. W. A.*

Kosmann und Th. Heinsius.) 第2巻 (1796年7月より12月まで), ベルリン 1796年, ベーリッツ・ウント・ブラウン出版書肆発行, 893-895頁所収。

(77) 「国内における正貨の消失について」 (*Vom Verschwinden des baaren Goldes in einem Staate.*)。署名 1796年8月4日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。J. W. A. コスマン, Th. ハインジウス編集『マルク・ブランデンブルク歳時記』第2巻, ベルリン 1796年刊, 922-924頁所収。

(78) 詩「奢侈と共和国」 (*Der Luxus und die Republik*)。署名 レカーンにて, フォン・ロヒョー。J. ビースター編集『ベルリン月刊雑誌』 (*Berlinische Monatsschrift. Herausgegeben von J. Biester.*) 第28巻 (1796年7-12月号), ベルリン 1796年, ハウデ・ウント・シュペーナー出版社発行, 239-240頁所収。

(79) 「耐湿・耐寒家屋についての提案」 (*Vorschlag, die Häuser vor Feuchtigkeit und Kälte zu sichern.*)。署名 1796年10月7日。ハルバーシュタット文芸協会編集発行, 貧民救済のための週間誌『新公益雑誌』 (*Neue gemeinnützige Blätter. Eine Wochenschrift zum Besten der Armen. Herausgegeben von der literarischen Gesellschaft zu Halberstadt.*) 第23号, ハルバーシュタット 1796年刊, 283-284頁所収。

(80) 「幸福主義説ならびにカント学説の利用についての私見。ある友人に宛てて書き送る」 (*Meine Gedanken über die Benutzung des eudämonistischen und Kantischen Lehrgebäudes. In einem Briefe an einen Freund!*)。署名 1796年11月9日, レカーンにて, フォン・ロヒョー。『ドイツ月

刊雑誌』1796年第3巻(9-12月号), ライプチヒ 1796年, ソンメルシ
ェ・ブーフハントルグ発行, 237-239頁所収。〔全集第3巻, 137-138頁
収録。〕

- (81) 詩「去り行く年を送る」(*An das abscheidende Jahre.*)。署名〔1796
年〕12月22日, レカーンにて, フォン・ロヒョー。ハルパーシュタット
文芸協会編集発行, 貧民救済のための週間誌『新公益雑誌』第6年次
分, 第4四半期集, 133-136頁所収。

1797年

- (82) 「立派で且つ有益な事柄を最後までやりとげることについて」
(*Über die Beharrlichkeit bei dem, was gut und nützlich ist.*)。『マルク経
済協会年報』第3巻第1号, ポツダム 1797年, カルル・クリスティー
アン・ホルヴァート書店発行, 42-45頁所収。
- (83) 論文「賦役について」(*Über Frondienste.*)。『マルク経済協会年報』
第3巻第1号, ポツダム 1797年刊, 131-137頁所収。
- (84) 論文「人はある事物について何を考えることができるかについて
——別名, 範疇について」(*Über das woran man bei einem Dinge denken
Kann, Oder über Kategorien.*)。署名 1797年4月7日, レカーンにて,
フォン・ロヒョー『ドイツ月刊雑誌』1797年第2巻, ライプチヒ 1797
年刊, 97-103頁所収。〔全集第3巻, 139-144頁収録。〕
- (85) 著書『市民学校および産業学校における初歩教授のための教材』
(*Materialien zum frühen Unterricht in Bürger = und Industrieschulen.*)。
発行地 ベルリンおよびシュテッティン。発行時 1797年。発行所 フ

リードリヒ・ニコライ出版社。総頁数 47頁。

内容 III-IV頁 序文。7-47頁 本文。47頁 本文末尾に署名が為されている：
1797年4月10日，レカーンにて，フォン・ロヒョー。〔全集第3巻，145-160頁収
録。〕

1798年

(86) 論文「クラーネおよびゲッティンにおいて 畜耕賦役を廃止した結果
についての報告」(*Nachrichten von dem Erfolge der Aufhebung der Span-
ndiendienste in Krahe und Götting.*)。『マルク経済協会年報』第3巻第2
号，ポツダム 1798年，カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店
発行，29-34頁所収。

(87) 論文「大火災について」(*Über Feuersbrünste.*)。『マルク経済協会年
報』第3巻第2号，ポツダム 1798年刊，52-56頁所収。

(88) 論文「統治の外貌について」(*Von der Physiognomie der Regie-
rungen.*)。署名 R...w.。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下の
プロイセン王国年報』(*Jahrbücher der Preußischen Monarchie unter
der Regierung Friedrich Wilhelm des Dritten.*) 1798年度第1巻(1-4
月)，ベルリン 1798年，ヨーハン・フリードリヒ・ウンガー書肆発行，
17-18頁所収。〔全集第3巻，445頁収録。〕

(89) 「ウィーンの雑誌《オイデモニア》に寄せる向左舞唱歌」(*Eine
Strophe auf die Wiener Zeitschrift: „Eudämonia“*)。署名 フォン・
R...w.。J. E. ビースター編集『ベルリン評論』(*Berlinische Blä-
tter*)^{*}第2年次分 第1四半期号，ベルリン 1798年，カルル・アウグ
スト・ニコライ^{**}出版社発行，191頁所収。

※ 「ベルリン評論」は、ベルリン啓蒙主義運動の主要機関誌であった F. ゲディーケ、J. E. ビースター編集「ベルリン月刊雑誌」(1783-96)の続刊として刊行され、1798年まで続いた。

※※ カルル・アウグスト・ニコライは著名なクリストフ・フリードリヒ・ニコライ(Christoph Friedrich Nicolai, 1733-1811)の息子。

(90) 頌詩「自我」(*Ich*)。署名 1798年3月9日、ベルリンにて、R...w。
『ベルリン評論』第2年次分 第1四半期号、ベルリン 1788年刊、310-312頁所収。

(91) 論文「彗星の恐怖について」(*Über die Cometen=Furcht*)。署名 フォン・ロヒョー。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1798年度第1巻、ベルリン 1798年刊、292-230頁所収。

(92) 論文「詭弁を弄するとは、一体どういうことを謂うのか？」(*Was heißt chicaner?*)。署名 1798年4月16日。R...w。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1798年度第2巻(5-8月)、ベルリン 1798年、ヨーハン・フリードリヒ・ウンガー 書肆発行、34-35頁所収。

(93) 論文「粗野な国民を淳化するには、どのようにして着手するか？」(*Womit oder wobei fängt man an, eine rohe Nation zu polizieren?*)。署名 1798年5月30日、ベルリンにて、レカーンの領主フォン・ロヒョー。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1798年度第2巻、ベルリン 1798年刊、303-304頁所収。〔全集第3巻、446-447頁収録。〕

(94) 「天候と本年の収穫高とについて、ならびにまた馬鈴薯栽培について

の所見, 1798年10月23日, ポツダムにて開催されたマルク経済協会集会における講演」(*Bemerkungen über die Witterung und Ausfall der dies-jährigen Ernte, auch über den Kartoffelbau. Vortrag, gehalten am 23. Okt. 1798 in der Märk. Ökon. Ges. zu Potsdam.*)^{*}。署名 フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』(*Gemeinnütziges Volksblatt, herausgegeben von der Märkischschen Ökonomischen Gesellschaft zu Potsdam.*) 第2年次分, ポツダム 1799年1月, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行^{**}。56-58頁所収。

※ E. シェファア著「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(*Ernst Schäfer, Friedrich Eberhard von Rochow. Ein Bild seines Lebens und Wirkens.*), ギュータースロー 1906年刊, 所収の「ロヒョー著作目録」では, この表題は「1798年の天候と収穫とについての所見」(*Bemerkungen über die Witterung und Erndte des Tahrs 1798*)となっている(同上書, 89頁 No. 46)。

※※ E. シェファアの「脚注」によれば, かれの入手したこの第2年次の原本には, このような編集者名, 誌名, 巻数, 発行地, 発行時および発行所名は記載されていない。そこで, シェファアは, これを第3年次分のそれに基づいて推定した, と断わっている。(同上書, 89頁「脚注」を参照)。なお, ヨーナス, ヴィネッケ共編『全集』所収の「著作目録」では, その点について何ら触れていない。

また, この講演は『マルク経済協会年報』第3巻第3号, ポツダム 1800年, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行, 1頁に再録されている。

- (95) 論文「青少年用教科書における幸福主義説について」(*Über die Eudämonistik in Lehrbüchern für die Jugend.*)。署名 1798年11月7日, レカーンにて, レカーンの領主フォン・ロヒョー。S. クリストフ・ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』(*Patriotisches Archiv für Deutschland. Der Gottheit, den Fürsten, dem Vaterlande gewidmet von Samuel Christoph Wagener. Im Selbstverlage und auf Kosten des Herausgebers*) 第1巻第1号, ベルリン 1799年, フリードリヒ・

マウラー書房委託出版, 85-88頁所収。〔全集第3巻, 161-162頁収録。〕

- (96) 論文「カント学説はどこで, どういう仕方で幸福主義説に与しているか」 (*Wo und wie schließt sich an das eudämonistische das Kantische Lehrsystem an?*)。署名 1798年11月19日, ベルリンにて, レカーンの領主フォン・ロヒョー。S. クリストフ・ヴァーゲナー編『ドイツのための愛国文庫』第1巻〔第1号〕, ベルリン 1799年刊, 88-91頁所収。〔全集第3巻, 163-165頁収録。〕

1799年

- (97) 著書『物故した教養人たちとのあいだに取り交わした学芸に関する書簡。第1巻』 (*Literarische Korrespondenz mitverstorbenen Gelehrten. Erster Band.*)。発行地 ベルリンおよびシュテッティン。発行時 1799年。発行所 フリードリヒ・ニコライ出版社。総頁数 270頁。

内容 III-IV頁 序言。IV頁 署名: 1798年8月23日, レカーンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。IV-V頁 収録書簡目次。1-264頁 本文。

のちほど, フリッツ・ヨナーナス (Fritz Jonas) はこの書に厳密なテキスト・クリティークを施し, 未収録の書簡若干を増補してこれを次の書として刊行した。

- a. フリッツ・ヨナーナス編『教育学者フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーとその友人たちとのあいだに交わされた学芸に関する書簡』 (*Literarische Korrespondenz des Pädagogen Friedrich Eberhard von Rochow mit seinen Freunden. Neu herausgegeben und vermehrt von Dr. F. Jonas.*)。発行地 ベルリン。発行時 1885年。発行所 L. エーミヒケ (R. アペリウス) 書房。総頁数 304頁。

内容 タイトルページにはロヒョーの肖像画が飾られている。V頁 第1版への序言〔前掲書(97)III-IV頁所収の序言の再録〕。VI-VII頁 第2版への序文。VII頁 署名: 1884年8月, ベルリンにて, Dr. F. ヨナーナス。VIII-XXVI頁

ロヒョーの生涯。XXVI-XXX頁 ロヒョーの印刷された著作の目録。1-258頁 本文。259-274頁 付録。

- b. F. ヨーナス, F. ヴィネッケ編『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー教育学全集』第4巻 (*Friedrich Eberhard von Rochows Sämtliche pädagogische Schriften. herausgegeben von Fritz Jonas und Friedrich Wienecke, IV. Band.*)。発行地 ベルリン, 発行時 1910年。発行所 ゲオルク・ライマー書店。総頁数 484頁。

内容 この全集第4巻では, さらに83通の書簡が新たに採録増補されており, その収録書簡数は総計304通に達している。III頁 目次。V-X頁 序言。X頁 署名 1909年11月3日, ベルリンにて, フリッツ・ヨナス。1-383頁 本文。384-385頁 収録書簡索引。386-436頁 ロヒョーの伝記。437-463頁 レカーン学校参観者名簿。464-466頁 全集収録著作アルファベット順索引。467-473頁 人名索引。474頁 正誤表。

- (98) 詩「去り行く年を送る」(*An das abgeschieden Jahr.*)。署名 R...w。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世 統治下のプロイセン王国年報』1799年度第1巻(1-4月), ベルリン 1799年, ヨーハン・フリードリヒ・ウンガー書肆発行, 81-82頁所収*。

* E. シェファー著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』所収の著作目録では「61-62頁」となっている。(参照, ditto. s. 92. No. 69.)。

- (99) 論文「夏作穀物のなかにしろがらしの類が繁茂するのを根絶する最善の方法について」(*Über die beste Art der Vertilgung des Hederichs aus dem Sommergeereide.*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第2年次分, ポツダム 1799年1月, カルル・クリスティアン・ホルヴァート書店発行, 96-98頁所収。

- (100) 論文「放牧馬の見張りについて」(*Von Hütung der Pferde.*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑

誌』第2年次分，ポツダム 1799年1月刊，250-254頁所収。

(101) 論文「不作の若干の原因について」(*Über einige Ursachen der Schlechten Ernten.*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第2年次分，ポツダム 1799年1月刊，381-383頁所収。

(102) 論文「刑務所に収監されている囚人の更生に関する提案」(*Vorschläge, was mit denen im Zuchthause Gebesserten anzufangen wäre.*)。署名 1799年4月2日，ベルリンにて，R...w。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1799年度第2巻(5-8月)，ベルリン 1799年，ヨーハン・フリードリヒ・ウンガー書肆発行，54-55頁所収。〔全集第3巻，448-449頁収録。〕

(103) 論文「農村学校の改善に関してさらに一言する」(*Noch ein Wort über die Verbesserung der Landschulen.*)。署名 1799年5月2日，レカーンの領主フォン・ロヒョー。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1799年度第2巻(5-8月)，ベルリン 1799年刊，114-118頁所収。〔全集第3巻，116-169頁収録。〕

(104) 論文「耕種農業の不生産的な補助手段について」(*Über die sterilen Hilfsmittel des Ackerbaues.*)。署名 1799年5月7日，聖堂参事会員フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第3巻第3号，ポツダム 1800年，カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行，67-72頁所収。

(105) 論文「農民と農村工業」(*Der Landmann in Rücksicht auf seine Industrie.*)。署名 1779年5月7日，聖堂参事会員フォン・ロヒョー。

『マルク経済協会年報』第3巻第3号, ポツダム 1800年刊, 84-87頁所収。

- (106) 枢密高等財務局評議官フォン・クノープラウフの論文《新東プロイセンに居住するロシア正教会分離派教徒に関する若干の報告》への「跋文」(*Begleitwort zu dem Aufsatz des Geheimen Ober = Finanzrats von Knoblauch: Einige Nachrichten über die in Neuostpreußen befindlichen Philipponen.*)。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』(*Neue Berlinische Monatsschrift. Herausgegeben von J. E. Biester.*)※ 第1巻, ベルリンおよびシュテッティン 1799年, フリードリヒ・ニコライ出版社発行, 403-404頁所収。

※ 『新ベルリン月刊雑誌』は『ベルリン評論』の続刊であって1811年まで発行された。本稿14頁(89)の註を参照。

- (107) 「国内の賢者, 善人にたいする二三の質問」(*Ein paar Fragen an die Klugen und Guten des Landes*)。署名 なし。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1799年度第2巻(5-8月), ベルリン 1799年, ヨーハン・フリードリヒ・ウンガー書肆発行, 56-57頁所収。

- (108) 論文「教育と学校」(*Erziehung und Schule.*)。署名 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。『フリードリヒ・ヴィルヘルム三世統治下のプロイセン王国年報』1799年度第2巻(5-8月), ベルリン 1799年刊, 263-266頁所収。〔全集第3巻, 170-174頁収録。〕

- (109) 論文「形成することと変革すること」(*Formieren und reformieren.*)。署名 1799年7月, レカーンにて, フォン・ロヒョー。S. クリストフ・

ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』第1巻第2号，ベルリン1800年，フリードリヒ・マウラー書店委託出版。53-62頁所収。〔全集第3巻，175-189頁収録。〕

- (110) 論文「年少児童の授業においてルター教理問答書を早くから使用することについて」(*Über den frühen Gebrauch des Lutherischen Katechismus bei dem Schulunterricht kleiner Kinder.*)。署名 1799年11月12日，ベルリンにて，レカーンの領主フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』第2巻(1799年7-12月号)，ベルリンおよびシュテッティン 1799年，フリードリヒ・ニコライ出版社発行，466-472頁所収。〔全集第3巻，181-185頁収録。〕

- (111) 「1799年8月15日，クラネ村の教会を襲った稲妻についての報告」(*Nachrichten von einem kalten Blitzstahl, welcher am 15. August 1799 die Kirche zu Krahne getroffen hat.*)。J. W. A. コスマン，Th. ハインジウス編集『マルク・ブランデンブルク，マグデブルク公爵領ならびにポンメルン公爵領歳時記』(*Denkwürdigkeiten und Tagesgeschichte der Mark Brandenburg und der Herzogtümer Magdeburg und Pommern. Herausgegeben J. W. A. Kosmann und Th. Heinsius.*) 第8巻(1799年7-12月)，ベルリン 1799年，ペーリッツ・ウント・ブラウン出版書肆発行，1085-1086頁所収。

- (112) 論文「わたしの所領における本年の経済的事件について。1799年10月29日」(*Von den dieslahrigen Wirtschaftsereignissen auf den von Rochowschen Gütern. 29. Oktober 1799*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒョー。『マルク経済協会年報』第3巻第4号，ポツダム 1800年，カルル・クリスティーアーン・ホルヴァート書店発行，11-15頁所収。

- (113) 著書『兵士および農民の子どものための教科書』 (*Lesebuch für Soldaten=und Bauerkinder*)。

ロヒョーはこの書を1799年11月4日にプロイセン国王フリードリヒ・ヴィルヘルム三世に奉呈した。この書は国王の賛成を得たが、しかし全国的に採用されるにはいたらなかった。「衛戍地学校における教授について」 (*Über den Unterricht in den Garnisonschule*) 1799年8月31日付けの国王の回状命令が、ロヒョーをしてこの書を著わさしめる動機となった。(参照 Friedrich Wienecke, *Das preußische Garnisonsschulwesen*, Berlin 1907. S. 51 f.。また, 1799年8月31日の回状命令は, Ludwig von Rönne, *Das Unterrichts=Wesen des Preußischen Staates*, Berlin 1854, S. 89 ff. にその全文が収録されている。)

この書は今日もはや発見され得ない。

1800年

- (114) 《公益通俗雑誌》第3年次分, 1800年刊, への「巻頭言」 (*Vorrede zum gemeinnützigen Volksblatt. 3. Jahrgang. 1800.*)。署名 フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第3年次分, ポツダム 1800年1月, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行, 3-4頁所収。

- (115) 論文「宗派, 信心」 (*Religionspartei, Religiosität*)。署名 1800年2月2日, ベルリンにて, フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。S. クリストフ・ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』第2年次分第1巻, ベルリン 1801年, フリードリヒ・マウラー書房委託出版, 268-271頁所収。〔全集第3巻, 186-187頁収録*。〕

※ 全集第3巻, 186頁の記述では「ドイツのための愛国文庫」第3巻第2号, ベルリン 1802年刊, 268-271頁所収となっている。

- (116) 論文「全般的学校計画の試み」(*Versuch eines allgemeinen Schulplans.*)。署名 1800年2月6日, ベルリンにて, レカーンの領主フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。J. E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』第3巻(1800年1-6月号), ベルリン 1800年, フリードリヒ・ニコライ出版社発行, 163-172頁所収。〔全集第3巻, 188-193頁収録。〕

この論文はまた, S. クリストフ・ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』第2年次分第1巻, ベルリン 1801年刊, 272-280頁※にも掲載されている。

※ 全集第3巻, 188頁の記述では『ドイツのための愛国文庫』第3巻第2号, ベルリン 1802年, 271-280頁所収となっている。また, 署名は1800年2月8日である。

- (117) 「羊の水飼場について」(*Über die Tränken der Schafe. Vortrag, gehalten am 20. April 1800 in der Märk. Ökon. Ges. zu Potsdam.*)。署名 レカーンの領主フォン・ロヒュー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第3年次分, ポツダム 1800年1月, カルル・クリスティーア・ホルヴァット書店発行, 381-384頁所収。

- (118) 「蜂蜜。ひとつの寓話」(*Die Bienen. Eine Fabel.*)。署名 1800年7月30日。S. クリストフ・ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』第2年次分第1巻, ベルリン 1801年, フリードリヒ・マウラー書房依託出版, 267頁所収。

- (119) 論文「過去の教訓」(*Lehren aus der Vergangenheit.*)。署名 1800年7月30日。S. クリストフ・ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』第2年次分第2巻, ベルリン 1802年, フリードリヒ・マウラー書

房依託出版, 43-46頁所収。〔全集第3巻, 453-454頁収録。〕

- (120) 「松喰虫を退治する手段」 (*Ein Mittel zur Verminderung der Kienraupe.*)。署名 1800年9月28日, レカーンにて, フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第4年次分, ポツダム 1801年, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行, 16*-18頁所収。

※ シェファー著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』所収のロヒョー著作目録では, 16頁は誤植であって正しくは17頁であると脚注が付してある。(ditto. S. 90. Anmerkung 2.)。

また, マルク経済協会編集『マルク経済協会年報』第3巻第5号, ポツダム 1802年, カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行, 29-33頁にも, 「松喰虫を退治する手段およびその実験成績の詳細についての報告」 (*Ein Mittel zur Verminderung der Kienraupe und Fernerer Bericht von diesem Versuche.*)。(署名 なし)と題する論文が掲載されているが, その内容は前者とほとんど同様である。

- (121) 論文「農業における算術の不可欠性」 (*Die Unentbehrlichkeit der Rechen-Kunst in der Landwirtschaft.*)。マルク経済協会編集『マルク経済協会年報』第3巻第5号, ポツダム 1801年刊, 60-65頁所収。〔全集第3巻, 450-452頁収録。〕

- (122) 論文「本年の天候と収穫とについて」 (*Über die diesjährige Witterung und Ernte.*)。署名 1800年10月22日, レカーンにて, フォン・ロヒョー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第4年次分, ポツダム 1801年刊, 33-36頁所収。

また, マルク経済協会編集『マルク経済協会年報』第3巻第5号, ポツダム 1801年刊, 117-120頁にも, 「1800年の天候と収穫とについて」

(*Über die Witterung und Ernte des Jahres 1800.*)。という表題の論文が掲載されており、両論文は内容的にほとんど一致している。

1801年

(123) 論文「抜本的な学校改革について」(*Über gründliche Schulverbesserungen.*)。署名 1801年2月20日、ベルリンにて、レカーンの領主フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒュー。H・G・ツェレンナー編集『新ドイツ学校の友——市民学校および農村学校教師のための手引書を兼ねた有益な読物』(*Der Neue deutsche Schulfreund, ein nützliches Hand- und Lesebuch für Lehrer in Bürger- und Landschulen.*) 第1巻、ベルリンおよびシュテッティン 1801年、フリードリヒ・ニコライ出版社発行、5-7頁所収。〔全集第3巻、194-195頁収録。〕

(124) 論文「農業のひとつの新しい敵についての報告」(*Nachricht von einem neuen Feinde der Landwirtschaft.*)。署名 1801年11月16日、フォン・ロヒュー。マルク経済協会編集『公益通俗雑誌』第5年次分、ポツダム 1802年、カルル・クリスティーアン・ホルヴァート書店発行、82-84頁所収。

〔未完〕